

東久留米市立第七小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な文字(平仮名、片仮名、漢字)の書き順</li> <li>・読み書きの習得が苦手な児童がいる。</li> <li>・自分の考えを文章に表現することが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の文字の書き順や読みについて、繰り返し確認したり、復習プリントなどで反復練習したりする機会をつくる。</li> <li>・文作りに慣れさせるために、作文の機会を多く取り入れる。友達の作文の発表を聞き、いろいろな作文の書き方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートやプリントなどで確認する。</li> <li>・児童の8割が、学年末に習得できる。</li> <li>・児童の7割が、学年末には、自分の考えをすらすら文に表すことができる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法減法について、正しい計算の仕方が身に付いていない児童がいる。</li> <li>・文章問題において、正しく立式することが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量感を養うために、おはじきや算数ブロックなどを操作しながら考える活動を取り入れ、計算ドリルやカード、既習プリントなどを用いて繰り返し問題を解かせ、習熟を図る。</li> <li>・正しく式を立てるための根拠となるキーワードを見付け、キーワードとなる言葉や数に線を引かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストで確認する。</li> <li>・児童の8割が正答率80%以上を達成できる。</li> <li>・プリントやワークテストで確認する。</li> <li>・児童の8割が、自力で線を引き、立式し答えを導くことができる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験が少なく、身の回りのものを活用したり、遊びを工夫したりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>・諸感覚を使って気付いたことや自分の思いを表現することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えに触れさせたり、教師が例を見せたりして、自分の遊びの工夫に生かせるよう支援する。</li> <li>・表現を増やすために、体験を言葉とつなぎ合わせる問いかけをしたり、表現活動をしたりする。よい表現については価値付けをし、全体で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割が、試行錯誤しながら遊びを工夫しようとする。</li> <li>・児童の8割が、観察カードや振り返りカードで、自分の思いや様子を書くことができる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と遊びながら歌うことが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌う前にお手本を見せたり、みんなで歌うことの楽しさを味わわせたりするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割が、遊びながら歌う楽曲のときに、楽しく活動できる。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達を絵に描くことが苦手な児童がいる。</li> <li>・はさみやのり等の道具を使うことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物を描く指導の際には、頭、胴体、手足など、簡単な体の構造を確認してから、描かせるようにする。描き方の手本を見せることでいろいろなポーズの描き方を知る。</li> <li>・はさみやのり等の正しい使い方を繰り返し指導する。工作の際に、個別に使い方を指導する。道具を使う活動を多くし、使う機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割が、自分や友達を絵に描くときに、頭、胴体、手足など簡単な体の構造を書くことができる。</li> <li>・児童の8割が、はさみやのりを正しく使うことができる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に向き合って、運動に取り組むことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師または児童が模擬演技等をし、体の動かし方のイメージをもたせるようにする。</li> <li>・ワークシート等を活用し、自分の課題を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割が、振り返りを行い、自分の課題を解決することができる。</li> </ul>
科特別 道徳教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材に対して、意見をもつことはできるが、自分自身を客観視して考えたり、取り組んだりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を見つめる活動で、身近なことを取り入れ、実感がもてるよう例を挙げたり、普段の様子に着目させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割が、ワークシートや発表などから自分自身のことを振り返ることができる。</li> </ul>

東久留米市立第七小学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・漢字の字形が捉えられない、送り仮名を正確に書けない等、習熟が十分でない児童がいる。	・漢字の特徴を意識付けながら、授業を行う。漢字テストを定期的に行い、漢字を書く機会を増やす。	・児童の8割が漢字テストで80%以上を取る。（1学期、2学期、3学期各1回）
	・物語文、説明文の学習では、発問の意図を捉えられず、解答できない児童がいる。	・発問を繰り返し確認し、「だれが」「どこで」などキーワードとなる言葉に印を付けて取り組ませる。	・児童の8割が、単元テストにおいて正答率80%以上を取る。
社会			
算数	・文章問題で、題意を捉えられず立式できないので、解答できない児童がいる。	・演算方法を決定させる言葉に線を引くなどすることで着目させ、題意をつかめるようにする。	・児童の7割が、単元テストの評価観点【思・判・表】において、観点到達率80%に達する。
	・計算問題では、繰り上がり・繰り下がりの習熟が十分でない児童がいる。	・筆算の書き方を統一し、繰り上がり、繰り下りは必ず書かせる。	・児童の7割が、単元テストの評価観点【知・技】において、観点到達率80%に達する。
理科			
生活	・観察カードを書く際に、一般的な感想だけを書いている児童がいる。	・観察をする際には、観察する視点を示した観察カードを使用する。	・児童の7割が観察したものの形、大きさ、手触りや、においなどを、観察カードに書いて
音楽	・読譜を通じての表現において、音符の違いに気付き、正しいリズムで演奏することができ	・リズムカードを用いた常時活動を取り入れたり、リズム読みをしたりすることで、音符ご	・児童の7割が、リズムカードを用いてオリジナルリズムを作成し、それを実際に正しく表
工図 作画	・自分の思いを作品として表現することが難しい児童がいる。	・作る順序を示したり、友達の作品を見る機会を設定したりして、自分の作品の参考にする	・児童の8割以上が自分なりの思いを表現することができる。
体育	・体育を楽しむ児童が多いが、個人差が激しい。また、正しく技能を身に付けるための体	・学習活動の前に、多様な動きをつくる運動遊びを毎回取り入れる。	・児童の7割が学習カードに毎時間めあてと振り返りを書き、めあてを達成できたかを確認
道徳の特 徳 教別	・教科書を読んで、自分ならどうするか、どう考えるかと自分なりの考えをもつことが難し	・役割演技や動作化を取り入れ、活動を通して気付いたことや考えたことを振り返るように	・児童の7割以上が、毎回のワークシートによる振り返りを実施し、自分なりの考えを記入

東久留米市立第七小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章のつながりや関係性を理解して、内容を読み取ることが難しい児童がいる。</li> <li>覚えた漢字を文や文章で、適切に活用することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示する語句や接続する語句に着目させ、文と文との内容のつながりなどを明確に表す。</li> <li>常に手元に国語辞典を置き、自分で調べる活動を積極的に取り入れ、学習した漢字を使う習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割がワークテストにて正答率80%以上を取る。</li> <li>児童の8割がノートや日記に漢字を適切に活用することができる。</li> </ul>
会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことや様子を比較して、共通点や相違点を見付けたり、自分の考えをもったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる活動の時には、比較しやすいように、必ず目的や着目する視点を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割がノートやワークシート、新聞等に自分の考えを表現することができる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>位をそろえて計算することが難しい。</li> <li>適切な単位を選択したり、単位の仕組みを考えて換算したりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マス目のあるノートやプリントを使用し、位をそろえて計算する練習を行う。</li> <li>問題場面を確認するために、線を引く。</li> <li>実物を見て、大きさを比較し、視覚からもイメージをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割がワークテストにて正答率80%以上を取る。</li> <li>児童の8割が単位換算をすることができる。</li> </ul>
科理	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が見通しをもって観察や実験を行うことができず、主体的に問題解決することができ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習を取り入れ、予想や理由、考察などについて話し合うことで自分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が理由を付けて予想をたてることができる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に音楽と関わり、楽しく音楽活動しようとしているが、少人数で歌うことにまだ慣れていない。</li> <li>リコーダーの運指が身に付いていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら少人数で歌えるような活動を多く取り入れる。その際、歌ってよかったと思えるような言葉掛けをし、安心して歌える授業の環境づくりを心掛ける。</li> <li>スモールステップで目標に向けて無理なく楽しく取り組んでいけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今月の歌や既習の曲のまとめの際に少人数で歌うことができる。</li> <li>児童の6割以上がすすんで歌える。</li> <li>ペアやグループでの協働学習を取り入れる。</li> <li>児童の6割が正しく演奏できる。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく造形活動をする意欲は高く、活発に取り組んでいるが、活動の途中における指示が入りづらい。</li> <li>細かい作業やはさみ等の道具を使うことに苦手意識のある児童もあり、進度や技能の個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の段階で、板書で活動のポイントを分かりやすく表す。活動の区切りを伝え、その時間にどのように作品を制作していけばよいか各自で確認できるようにする。</li> <li>技能の低い児童には寄り添って個別に指導していく。できた達成感を次のステップにつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が、活動のポイントを理解して取り組める。</li> <li>児童の8割が、道具を正しく使ったり材料を生かしたりして表現できる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動経験が乏しく、基礎基本の動きを身に付けていない児童がいる。</li> <li>自分の課題に合わせためあてをもち、それを達成するための計画をたて、実行することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーキットトレーニングを準備運動に取り入れ、体の調整力やバランス感覚を養う。</li> <li>学習カードを活用し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いのよい点や改善点を伝え合うことで、課題を達成できるようにする。併せて、タブレットを活用し、自分の動きを視覚的にも確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割がその単元で目指すべき技能を習得することができる。 例：鉄棒運動⇒足かけまわり等の回転技</li> <li>児童の8割が自分の課題を把握し、めあてを設定することができる。</li> <li>児童の8割がめあてを達成するための練習を行うことができる。</li> </ul>
科特別 道の徳教	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いをワークシートに表現することが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割演技を取り入れ、自分の思いをまずは言葉で表現する時間をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が自分でワークシートに記入することができる。</li> </ul>
外国語 活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって、自分からすすんでコミュニケーションをとることができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルを指導者が実際に示し、活動の見通しをもたせるとともに、練習時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割がすすんでコミュニケーションをとることができる。</li> </ul>
習学な	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる活動はできても、集めた情報から分かったことを分析することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を明確にすることで、自分に必要な情報であるか確認させる。その後、共通点や相違</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が自分で情報を取捨選択し、分析することができる。</li> </ul>

東久留米市立第七小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字を、読んだり書いたりすることが定着しない児童が多い。</li> <li>伝えたいことを整理し、分かりやすく話したり書いたりする力が身に付いていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に漢字テストの範囲を知らせ、練習する時間を設ける。</li> <li>スピーチの時間を設定したり、ペアでの対話の時間を取ったりして、自分の思いや考えを表現する機会を増やす。</li> <li>文例を示し、何について書きたいかをはっきりさせ、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割が、漢字テストで正答率90%以上を取る。</li> <li>児童の7割がめあてに沿った考えをもち、話することができる。</li> <li>児童の7割が初め・中・終わりの構成に沿って、文章を書くことができる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや資料の読み取りが苦手な児童がいる。</li> <li>社会事象を身近なこととして、捉えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の提示方法を工夫し、資料の読み取りを全員で確実に進行。</li> <li>身近な生活の中から課題を見付け、自分の考えをノートにまとめさせたり、意見交流させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の7割がワークテストの正答率80%以上を取る。</li> <li>児童の8割が課題を見付け、自分の考えを書くことができる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>四則計算を苦手とする児童が多い。</li> <li>文章題の内容を正しく把握することができず、適切に式を立てることができていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシック・ドリルや計算練習プリントに朝学習の時間に取り組みせ、定着を図り、個別指導を丁寧に行う。</li> <li>文章題の内容を、図や絵、数直線等に表すことで、数量関係を捉えさせ、立式させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が、計算プリントの正答率80%以上を取る。</li> <li>児童の7割が、計算プリントの正答率80%以上を取る。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験、観察で体験したことで学習内容が結び付かない児童がいる。</li> <li>身近な動植物への関心は高いが、観察の方法、技能が身に付いていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果を考察する際に視聴覚資料等を活用し、学習内容の理解を確実にする。</li> <li>観察する観点を丁寧に伝え、観察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の7割が、ワークテストの正答率80%以上を取る。</li> <li>児童の7割が、観点に沿った観察ができる。</li> <li>児童の7割がワークテストの知識項目で70%以上取る。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心をもって音楽を聴いているが、多くの児童が抽象的な言葉での表現にとどまってしまい、共通事項と関連付けが難しく、表現の幅が狭い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて体を動かしたり、感じ取ったことや気付いたことを伝え合ったりする。また、音楽の構造を可視化して児童が理解できるようにしたり、特徴を捉えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の6割が、曲想と音楽の構造との関わりに気付くことができる。(ワークシートの記述内容、発言内容、活動の様子)</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に活動しているが、落ち着いて話を聞いたり、活動するのが難しい。</li> <li>個人差が大きく、根気強くつくるのが苦手な児童もいて、仕上げるまでに個別に支援を要する児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や素材が児童の興味関心に見合ったものとなるように工夫し、より意欲的に課題に取り組めるようにする。</li> <li>資料や学習の準備で児童が考えたり制作したりしやすくなるように、常に手だてを準備して丁寧に支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が表現する楽しさを味わい、落ち着いて作品制作に取り組める。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に苦手意識をもつ児童と、得意な児童に、活動への取り組みに対する差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的に練習できる場を設定したり、技のポイントを示したりして、個に応じためあてをもたせる。</li> <li>指導者が積極的に挑戦し、達成感をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードでの振り返り、学習中の取り組みの様子から見取る。(個に応じためあての達成率80%)</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的価値について、自分の生活経験と照らし合わせて、深く考えることができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な視点から物事を考えられるように、問いを工夫する。また、友達との交流を通して、自分の考えを深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割が、ワークシートに自分の考えを書くことができる。</li> </ul>
活外 動国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームや歌などは楽しく取り組むが、友達との交流に対して消極的な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が例示を示したり、練習時間を確保したりすることで、安心して学習に取り組む環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の9割が意欲的に交流活動に取り組むことができる。</li> </ul>
学習の 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>本やインターネットで調べることができるが、必要な情報を選び、自分の言葉でまとめることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べるテーマを明確にさせることで、集めた情報を整理しやすくする。</li> <li>まとめる例を提示して、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の8割が、調べたことをテーマに沿ってまとめることができる。</li> </ul>

東久留米市立第七小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	・語彙が少なく、言葉の意味や文法などの定着が不十分な児童が多い。的確に文章を読み解くことができない。	・自分の考えを書くことや伝え合う機会を積極的に設ける。 ・漢字辞典や国語辞典を学校生活で積極的に活用させることで語彙を増やす。 ・朝学習やテスト前の復習プリントで定着を図る。	・児童7割がワークテストの言語の正答率70%以上取る。
	・自分の考えや思いを文章で表現することが難しい児童が多い。	・文章構成や文型を示したり、作文メモを書かせたりするなど段階的な指導を行い、書くことへの抵抗感をなくせるようにする。	・児童の7割が、文の構成や表現について理解し適切に活用できる。
社会	・資料から必要な情報を的確に読み取ることができない児童がいる。	・より分かりやすい資料を取り入れたり、印刷した資料をノートに貼ったりするなど、情報に注目しやすくする。	・児童の7割が資料から二つ以上情報を読みとって、短くまとめることができる。
	・日本の産業や国土の様子について、正確な知識・技能の定着が不十分な児童がいる。	・授業の最初にフラッシュカードなどを活用し、知識の定着を図る。ICTを積極的に取り入れ、児童の抵抗感をなくす。	・児童7割が各単元テストの知識問題において、正答率が70%以上を取る。
算数	・知識、理解の観点別正答率が60%となっており、かけ算の筆算やわり算の筆算といった基本的な計算問題でつまづく児童が多い。	・筆算の仕方や小数点の処理の仕方を再確認し、基本的な計算問題に取り組むことで計算力の定着を図る。また、朝学習で既習内容の問題を解く。	・児童の6割以上が単元ワークテストで正答率70%以上取る。
	・既習を基に考えることが困難な児童が多い。	・毎時間、既習内容を確認してから新しい学習を行う。未習事項を教える場面と解決方法を考えさせる場面を明確にし、自力解決の時間を十分に確保する。	・児童の7割が、単元ごとに行うワークテストの思考・判断・表現の観点別正答率を60%以上取る。
理科	・3、4年の学習内容が知識として定着しておらず、既習事項が活用できない。	・単元内で行う実験の中で、実験器具の使い方を毎回確認する。何のためにそれを使用するのか、正しい使い方はどうやるのか、ということを確認する時間を確保する。	・児童の7割以上が単元ごとに行うワークテストで知識・技能の領域の正答率70%以上取る。
	・文章や図から情報を読み取り理解することが苦手な児童が多く、条件制御した実験の意味を理解することができない。	・実験ごとに変える／変えないの条件の確認と、何のためにそれを行うのか、ということを押さえながら学習を進める。	・児童の7割以上が単元ごとに行うワークテストで思考・表現の領域の正答率70%以上取る。
生活			
音楽	・楽しく音楽活動に取り組んでいるが、曲の難易度が上がると読譜でつまずき、学習意欲に影響が出てしまう児童がいる。	・読譜力に課題のある児童にも分かりやすい楽譜を用意する。細かく部分的に取り上げてリズムの確認をしたり、階名唱に取り組むことを継続的に行っていき読譜力の向上を図る。	・児童の6割が楽譜を見て正しく演奏できる。(演奏聴取、活動の様子、発言内容)
	・リコーダー・鍵盤ハーモニカの学習では、技能面における個人差が大きい。	・スモールステップで課題を提示して達成感を味わえるように、個人練習の時間を設け、リコーダー・鍵盤ハーモニカの技能の向上を図る。	・児童の6割が正しい運指や音色に気を付けて演奏できる。(演奏聴取、活動の様子を観察)
工画	・表現する力は付いてきているが、完成度の高い作品に仕上げることが苦手である。	・繰り返し技法を教えたり、造形イメージと合わせて完成度を高める指導を分かりやすく入	・児童の8割が自分なりの表現を深め、イメージと合うような造形活動を積極的に行える。
庭家	・家庭科への関心、意欲は高いが、調理や裁縫など、実習的な内容についても体験が少な	・各単元の学習の中で、家庭生活を振り返らせて関心をもたせるとともに、トライカードを	・9割以上の児童がトライカードに取り組める。

体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力したり、互いに教え合ったりし、意欲的に運動に取り組む児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階に合わせた場を設定する。また、技能のポイントが分かる学習カードを作成して、個人の技能に合わせて段階的に学習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割が技能面で到達ができる。</li> <li>・学習カードなどでめあてや振り返りを書かせて個人の達成状況を見取り、児童の8割が達成感を得ることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力の個人差が大きく、友達との協同を通して自己の課題を解決していく力を身に付けさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで学習する場面を設ける。考えを交流させることで運動のポイントやコツを伝え合う機会を積極的に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の様子から見取る。</li> <li>・児童の7割以上が技能面で到達ができる。</li> </ul>
道徳 特別 の 教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもつことはできているが、対話や話し合いを通して考えを深め、よりよい課題解決を考えていけるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループ、学級全体での話し合いなど様々な学習形態を用いて、意見を比較、集約しながら課題解決の方策を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割がワークシートなどを用いた対話や話し合い活動を通して、よりよい解決の方策を考えることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を通して自分自身のこと見つめ直し、これからの生活に生かそうとする心情を育てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ならどうするか、どう考えるかといった自分の立場から多面的・多角的に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童全員が自分自身を見つめ直し、自分の心にある考えを表現することができる。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験不足から恥ずかしさや不安を感じ、積極的に外国語を使ってコミュニケーションをとれない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTを真似して発音している児童を積極的に称賛するなど、児童に自信をもたせる。簡単なゲームを増やし、楽しみながら発音できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割がパフォーマンステストにおいてA評価を取る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の単語や内容を正確に聞き取って理解することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの発音やCDなどの音声テキスト、デジタル教材を活用して、児童が英語を聞いたり、話したりする活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割がワークシートや発言を通して、外国語の内容を正確に聞き取れる。</li> </ul>
時間 総合 的な 学習 の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習のテーマを考える際に、広がりや深まりが乏しく、探究的に活動する児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材に沿ったテーマを考える際に、様々な見方を提示する。また、学級全体で興味のある事を出し合う等、情報を共有する時間を設ける。書籍、ゲストティーチャー、インタビューなど多様な資料、情報の集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童全員が自分なりのテーマをもち、資料を活用して調べられるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を集めたり、活用したりするなど、自分の考えを効果的にまとめ、表現する力を付けさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたいテーマを明確にさせ、適切に情報を選んでいるか確認させる。自分の考えや意見がまとめたり、伝えたりできているか、確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割が、集めた情報を適切に活用することができる。</li> </ul>

東久留米市立第七小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙不足、言葉の意味や文法の理解が不十分で、文章を読み解く力にも影響している。</li> <li>・書く技能の、自分の考えや思いを文章で表現することが苦手な児童が多く、文章の構成に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文を書く機会や書いたものを読み合う機会を多く設ける。</li> <li>・読書量を増やすために、読書カードを活用したり、司書の方に本を紹介していただく場を積極的に活用する。</li> <li>・漢字辞典や国語辞典を授業中に活用することで語彙を増やす。</li> <li>・作文指導では構成や文型を示したり、作文メモを書かせたりして書くことへの抵抗感をなくせるようにする。</li> <li>・週末に取り組む日記を活用し文章を『書く』機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童8割がワークテストにて、言語の正答率80%以上取る。</li> <li>・児童の8割が、文の構成や表現について理解し、適切に活用できる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を的確に読み取ったり、資料を活用して自分の考えを表現したりすることができない児童がいる。</li> <li>・歴史の学習において、その時代の世の中の様子について、正確な知識を覚えられていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取った情報をまとめていく学習を取り入れ、自分たちの地域との比較させる。</li> <li>・授業の最初に知識問題を復習する時間を設けて、正確な知識を定着しやすくする。ICT機器を取り入れ、抵抗感なく知識習得をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割以上が資料から3つ以上情報を読みとって、短くまとめている。</li> <li>・児童の8割が各単元テストの知識問題にて正答率80%以上取る。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の終わりに行うワークテストにおいて知識・技能を見取る問題は、全体的に正答率が上がってきている。しかし、次の単元に進むと、以前に学習した内</li> <li>・文章題など、思考・判断・表現の問題が苦手である。文章題から正しく立式することができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリルを、週に1回以上取り組み、既習事項の定着を図る。</li> <li>・正しく立式できるように、文章問題を解く際は、数直線に表すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8割の児童が、3学期に行う診断テストでは80点以上取れるようにする。</li> <li>・8割の児童が数直線を自力で描き、立式できるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元ワークテスト時には覚えていても、時間が開いてしまうと忘れてしまっている。</li> <li>・課題を解決するための実験の目的が理解できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では既習事項を活用して仮説設定する習慣を身に付け、実験技能では毎回気を付ける点などを繰り返して説明して定着を図る。</li> <li>・実験する前に実験結果の予想を立てさせ、仮説設定時に想像したイメージどおりになるかどうか見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割以上が正答率80%以上取る。</li> <li>・児童の8割が仮説設定とその理由が書け、実験結果の予想ができる。</li> </ul>
生活			
楽音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容や曲想から思いや意図をもって表現を工夫できる児童がいる一方で、受け身で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自分なりの思いや意図をもてるよう、楽曲に対する理解を深めさせる。考えを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の6割以上が思いや意図をもって表現を工夫できる。(ワークシートや振り返りカード</li> </ul>
工画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組む児童が多いが、本時の学習を理解せずに作業に取りかかり、思考が深ま</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことや自分にできる工夫を具体的に考えて取り組む。アイディアスケッチで明確</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割が主体的に考えを深め、見通しをもって表現できる。</li> </ul>
庭家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲は高いが、調理や裁縫など、実習的な内容についても体験が少なく、不慣れで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の学習の中で、家庭生活を振り返らせ、関心を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割以上がトライカードに取り組む。</li> <li>・全員が自分なりの役割や、作品作りに取り組</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力し、ルールや約束を守って意欲的に運動に取り組む児童が多い。</li> <li>・運動能力の個人差が大きく、友達との協働を通して自己の課題を解決していく力を身に付けさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場の設定を工夫したり、技能ポイントが分かるような学習カードを作成したりして、個人の技能に合わせて段階的に学習させる。</li> <li>・GIGA端末を活用し、グループで学習する場面を設ける。考えを交流させることで運動のポイントを理解し合う機会を多くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の7割以上が技能面での達成感を得られるようにする。</li> <li>・児童の7割以上が技能面での達成感を得られるようにする。</li> </ul>

<p>道特別の教科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもつことができる児童は多い。</li> <li>・友達との意見交流を通して、自らの考えを深めるまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ならどうするか、どう考えるかといった自我関与を通して多面的・多角的に考えることが大切であると伝えていく。</li> <li>・ペアやグループ、学級全体での話し合いなど様々な規模と形態を用いて、意見を比較、集約しながら課題解決の方策を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物事の見方・考え方ができる。</li> <li>・児童の7割がよりよい課題解決の方策を考えることができる。</li> </ul>
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしさや不安から、積極的に外国語を使ってコミュニケーションをとれない児童が多い。</li> <li>・アルファベットを正しく書くことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの真似をして発音している児童を認めていく。</li> <li>・英語に慣れる時間を増やすために、簡単なゲームを増やし、楽しみながら学習できるようにする。</li> <li>・毎時間ABCの歌に合わせて、4線紙にアルファベットを書く時間を設け、児童がアルファベットを書く時間を充分に取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の8割がA評価を取るようになる。</li> <li>・児童の7割がアルファベットを正確に書くことができるようになる。</li> </ul>
<p>時間総合的な学習の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習のテーマを考える際に、広がりや深まりが乏しく、調べる手段もインターネットに偏りがちである。</li> <li>・必要な情報を選択し、活用する力や、効果的にまとめ、表現する力を付け、探究的な姿勢をもたせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な観点を提示し、学級全体で興味のある事を出し合う等、情報を共有する時間を設ける。また、書籍</li> <li>・調べたいことを明確にさせ、適切な情報を選んでいるか確認させる。また、自分の言葉でまとめたり伝えたりできているか、確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が自分なりのテーマをもち、資料を活用して調べることができる。</li> <li>・児童の7割が情報の活用については適切にできる。</li> </ul>